



道路や景観など
公共物を整えると
もっと魅力的に!

「稷体験」を始めた地域が
あります。
画面上か

などの体験ができる、観光だけでなく伝統産業に携わりたい人々の来訪や移住にもつながると思います。市長・若い人が訪れるようになる、もともと住んでいた人たちも刺激を受けて化学反応が起こると思います。古き良き伝統は守りつつ、新しい価値観を生んでいけるようなまちづくりを進めていきたいですね。鎌田・このコロナ禍を逆手にとって、「オンライン収

入」を指定した果物を農家さんが収穫し、宅配してもらおうかな試みなのですが、「やはり現地に行きたい」という気持ちになり、その後の来訪にもつながる企画だと感じました。浦里・結城に住んでいるからこそですが、早朝の時間帯にまち歩きをすると、酒蔵からのぼる蒸気や味噌蔵の大豆の甘い香りを味わえます。観光客は、結城に泊まらないと体験できませんね。北條・そのような体験ツアーだ泊る場所が必要ですね。例えば禅の体験などとあわせて、寺社の協力が得られたらおもしろいですね。飯野・実は、いつか北部市街地に宿泊施設を作りたいと考えています。また、元公民館の跡地にできる防災広場を、通常時はテントを張ってキャンプができるような「グランピング施設」として活用できると良いと思います。生沼・私は結城駅前に店を

構えていますので、駅前がもっと魅力ある場所になってほしいと思います。電車を利用して来訪する方も多いので、駅を降りたときの第一印象は非常に大切だと思います。市長・確かにそうですね。民間の力もお借りしながら、市民が集い観光のお出迎えの場になるよう、進めていきたいと思っています。まちづくりは5年、10年という長い視点で考えていく必要があります。そのためには、市民の皆さんと行政がしっかりと手を携えて、まちの将来像を共有していくことが何よりも必要です。今後、市民の皆さんの意見に真摯に耳を傾け、市政運営に努めてまいります。皆さん、そして結城市にとってさらなる飛躍の年となるようお祈りいたします。全員・また、こうした機会を作ってください。ありがとうございます。



市役所旧庁舎

うなワクワクするまちを目指したいですね。鎌田・個々の建物だけでなく、街灯や電柱、河川などの公共物を行政と一緒に整えていけると、もつとまちの強みが増えると思います。飯野・安全に歩ける歩道があったら、まち歩きをする観光客が増えると思います。浦里・子どもが小学校に通うようになってからは、通学路の安全性も気になります。市民の安心や安全が、そのまま観光誘客にもつながりそうですね。飯野・かといって、道を広げるのも結城らしさがなく

なる気がします。行政と連携して、軒先をもつと活用して通りと店舗がゆるやかにつながる制度ができる、と良いなと思います。市長・例えば、通りを一方通行にして車を規制すれば、歩道を確保しゆったり歩けるまちになりますね。飯野・建替などの際に、接道や消防の関係で狭い路地では塀などを壊さなくてはならない場合もあります。特区的な発想で、魅力ある景観を守る仕組みができれば良いですね。鎌田・原宿の竹下通りなどもそうで、生活者の理解を得ながら一定時間車の通行をストップさせることで、あの賑わいが生まれています。浦里・市役所が移転したことで、良い意味で北部市街地の交通量が少なくなつて、そのような前向きな規制が

地域全体で
おもてなしの心
を持ちたい!



しやすくなるんじゃないでしょうか。
鎌田・旧庁舎は、どのように活用していくのですか?

市長・私としては、北部市街地の観光拠点として大型バスなどを止められる駐車場を整備し、まち歩きの出発点にできればと考えています。また、弘経寺から旧庁舎や結城小学校前の築地塀、城跡歴史公園まで桜並木を整備し、「桜の回廊」を作れたらと考えています。飯野・「結城は歴史があるのに見せる場所がない」というのは前から言われているので、歴史や文化が学べたり、何か体験ができた

観光の出発点としてまちとつながった施設ができると良いですね。鎌田・ヨーロッパでは、まちの中心部には自家用車が入れず、バスなど公共交通だけが通るまちも多くあり、そうすると市街地の中心部に広場や緑をおくこともできます。

未来の結城

市長・たくさんのご意見をいただきましたが、提案したいことややりたいことなどがあり、ぜひご意見をいただければと思います。浦里・私自身にも当てもともと住んでいる人たちが結城の未来を真剣に考えたり、意識を変えることが重要だと思います。今回のような「結城

まちの将来像を話し合ったり結城を学ぶ勉強会があるといい!



ベースに考えています。地域住民の日々の暮らしの先に、観光があると思います。それと、伝統産業

の未来」を話し合う場を作ったり、観光に関わる人同士が勉強会を通じて同じ方向を向くことができれば、結城は変わる気がします。鎌田・地域に住む人たちが「観光ガイド」的な役割を担ってくれるようになると、劇的に観光に訪れやすくなります。飯野・私は北部市街地で生まれ育ったので、「観光」よりもまずは「暮らし」を

令和3年新春座談会「結城の観光地域づくり～北部市街地のイノベーション～」

参加者の意見まとめ

- 無理に観光地を目指すのではなく、住民の暮らしやすさを基本にした「日常観光」こそを魅力に。
- 歩道整備や車の規制、電柱対策など、公共物を行政がしっかり整えて「歩きやすいまち」へ。
- 旧庁舎は、北部市街地の観光の出発点として、展示施設や駐車場などを整備するべき。
- 路地や寺社など、まちの資源を楽しめるイベントに活用し、「結城のファン」を増やしていく。

何よりもまず、市民と行政がまちの将来像を共有することが大事!

皆さんにとって素晴らしい年になりますように!

